ここまで色々な家族の姿を見てきたヨシダ君は、頭の整理をするために、専門家の味沢道明さんに家族についてお話を聞くことにしました。

●味沢道明さんプロフィール

10年のサラリーマン生活を経て専業主夫に。その後パート主夫をしながら自宅でエコロジカル料理教室を主宰。

現在、DVや虐待に悩む人たちのサポートを行うメンズサポートルーム共同代表。

今年度、三重県男女共同参画センターの「未来家族講座」の講師を務めている。

大学で男女共同参画について勉強しているうちに、家族の問題に関心をもつようになりました。指導教官の先生のアドバイスもあって、まずいろんな家族の姿を見て、自分なりに「家族って何だろう」と考えてみました。でも、同じような環境でも満足している人がいる一方で逆に悩んでいる人もいたりして、とても複雑でまとまらなくなってきてしまったんです。

そこで、まずお聞きしたいのですが、味沢さんが考える「家族」ってどんなものですか?

家族をイメージとして考えた時、私にとっては、「男は仕事、女は家庭」というような性別役割分業の色合いが濃い家族になる。良い会社人間を作り出す機能は果たしているんだけど、これだと何か大事なことを置き去りにしているような気もするんだ。

置き去りにしている大事なことって何でしょうか?

夫婦、あるいは親子の間でコミュニケーションが上手く図れなくなっている人もいるように思う。昔は地域社会が家族的な機能を果たしていたこともあって、家の中にも外にも人間関係が学べる環境があったんだけど、そういうのもなくなってきてしまっているし。家族というくくりが小さくなってしまった気がするんだよね。

そのことに女性は気づき始めているけれど、男性が取り残されているような気がするんです。家族の中の父親像も変わってきましたよね。

昔と違って、今は父親の威厳が保てなくなっているような気がするね。もちろんそれが男性に必要と言うわけではないよ。創られた父親像ではなく、もっと自分自身の人間的な部分で自分を支えていかないといけなくなってきている。なのに、昔から「男は寡黙であれ」という育てられ方をしたせいで、コミュニケーション下手な男性が多いように思うんだよね。

コミュニケーション下手ですか。それが家族の中でのお互いの居心地の悪さにつながっていくのでしょうか?

だとしたら、今ある家族はどのように変わっていけばいいのでしょうか?

無理に変える必要はないと思うけど、自由に何でも言える関係が大切。「あなたはこう生きたいのよね」とお互いを尊重する。役割として相手とつながるのではなく、その人が何をしたいのか、お互いを認め合うことが大切なんじゃないかな?

一人ひとりを大事にする家族であって欲しいね。

ありがとうございました。

味沢さんにお話を伺って、絡まっていた糸がほどけてきたような気がします。ちょっとすっきりしました。

「役割でつながるのではなく、一人の人間としてお互いを認め合う」ことがポイントですね。そういえばちょっと面白い家族がいるから、のぞいてみようよ。

IT講師の資格の勉強を考えているユミさんのお義母さんですが、その事に対するお義父さんの反応はどうも良くなさそうです。今日は、ユミさんの夫も入って話が弾んでいるようです。

義父 63才

義母 58才

夫 30才

ユミさん 29才

子ども 3才

「IT講師の資格を取っておけば、いざというときに働きやすかったりするそうだし、今、外国に行っている友達ともインターネットでやりとりすれば電話よりずっと料金を気にせず済むじゃない」

「でも、IT講師だと、夜の講習会とかに行くことが多くなったりしないのか。夕食やなんかはどうするつもりなんだよ」

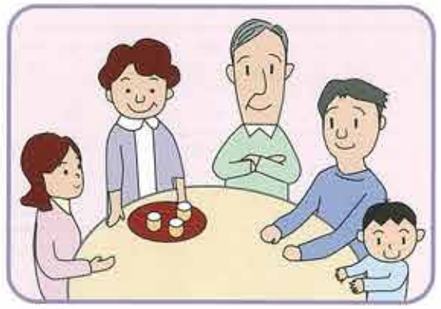
「私は、結婚してからずっと家のことだけをしてきて、子どもも独立したし、やっと自分の時間が持てるようになったのよ。お父さんに会社の定年退職があるんだったら、私にも主婦の定年退職があってもいいんじゃないの。私も自分を試してみたいの」

「おふくろの気持ちも分かるよ。やりたいことに挑戦すればいいんじゃない。ユミも何か始めたら」

「私は、子どもと一緒にいるのがすごく楽しいの。だから、子どもたちに手がかからなくなったら考えてみるわ。でも、その時は協力してね」

「もちろん。子どものことは2人で協力してやっていくことに決めているからね」

「しかし、どうやって二人で協力するんだよ。一郎は会社があるし、ユミさんとお母さんしか、面倒みられないじゃないのか」



「そう言って、お父さんは子どものことは全部私に任せっきりでしたね。いつも仕事とか何とかで逃げてばかり」

「逃げてるんじゃなくて、『男は仕事、女は家庭』と決まっているじゃないか」

「親父、それおかしいんじゃないのか。そんなの今じゃ通用しないよ。」

「・・・」

「まあ、お父さんに急に変われっていうのもかわいそうだから、少しずつ協力してもらうことにしましょう」

「おふくろもこう言っているわけだし、親父も少し考えたらどうだよ」

「今更そんなこと言われてもなあ・・・。あっ。スズキさんと約束があったのを忘れてたよ。ちょっと出かけてくるよ」

「あらっ。お父さん、私が夜に出かけることは反対なのに、自分はいいんですか」

「話はまた後でな。とにかく行って来るよ」

家族の対話ありますか。第3日曜日は「家庭の日」です。

本来、毎日が「家庭の日」であればいいのですが、時間に追われがちな生活の中で、子どもとゆっくり話をしたり、楽しんだり、子どもの心を理解するゆとりのない家庭もあると思います。

そういった人たちも、「少なくとも月に1度くらいは家族みんなでふれあいの時間を持ちましょう」という趣旨で、三重県では毎月第3日曜日を「家庭の日」と定めました。

「家庭の日」協賛無料開放施設／県立美術館（津市）、県立博物館（津市）、斎宮歴史博物館（明和町）、みえこどもの城（松阪市）、亀山歴史博物館（亀山市）、松浦武四郎記念館（三雲町）、旧小田小学校本館（上野市）、尾鷲市立天文科学館（尾鷲市）、種まき権兵衛の里（海山町）、B&G海洋センター（長島町）、ハートフルみくも（三雲町）、市立郷土資料館（伊勢市）、総合文化センターギャラリーで県が行う自主事業